

光岡寺報

2011年 8・9月

〒679-2323 兵庫県神崎郡

市川町甘地384

後藤明照・由美子（惟蓮）

Tel & fax 0790-26-0162

mail [Kouenji_dayo@nifty](mailto:Kouenji_dayo@nifty.com)

[.com](http://Kouenji-hou.com/)

<http://Kouenji-hou.com/>

通信費年間 1000円

蟪蛄けいこしゅんじゅう春秋を識しらず、

伊虫いちゅうあに朱陽しゅうようの節せつを知

らんや

曇らん
曇鸞 『浄土論註』

セシは春や秋を知らない。この虫がどうして夏を知っていようか。

仏教徒宣言（その九十二）

お盆前から連日、三十七℃〜三十九℃という体温を超えた、うだるような暑さで、最高気温を塗り替えるような猛暑が返って来ました。そんな中、あの大震災から五ヶ月になります。福島の人たちはこの暑さの中、長袖・ズボン・マスク・帽子での外出、そして、窓を閉め切ったままでの生活をしているのでしょうか。原発の状況は刻々と変化し、流れてくるニュースでは収束に向け作業が進められてはいるのですが、未来に向けた展望が示されずに、閉塞した、見えない物に恐怖する日々を余儀なくされている被災地の人たちの苦しみが、伝わって来ます。

その象徴的な記事が、今朝の新聞（毎日・十一日）のトップに「福島子どもでない夏」とあり、「八万七千六十三人全国に避難」とあります。これは、当然、今も続いている、福島第一原発事故がもたらした放射能漏れによる健康被害を避けるために、親たちが選ばざるを得なかった悲しい事実です。この時期に個人で子どものために出来る事が短期の避難なのです。しかしこれはほとんどが民間の限りある活動で、とり残された子どもは少なくないし、そこに現地での人間関係の亀裂や、差別、抑圧が生れてしまおうし、本来、国がすべきことのはずです。又除染作業も、個人や自治体で行なわれていますが、東電や国がすぐにしなければならぬことだったのでないでしょうか。避難も除染作業もできることだったはずですが、七月二十七日国会の参考人説明で児玉龍彦東京大学先端科学技術研究センター教授が、三カ月経って無策である国会に、満身の怒りを表明する！と科学者としての誠意と熱意で話された映像が、インターネットで公開され、多くの人の知る所になっています。児玉教授は毎週末七〇〇キロの道のりを運転して南相馬市に通い、除染作業の指導にあたってきました。東大にこんな人がいたのかと希望を与えてくれます。

放射能被曝は、六十六年前から私たちは、毎年八月六日・九日、広島・長崎から問われて来ていたはずですが、その後、ビキニ環礁第五

福竜丸の船員の被曝事故があり、スリーマイル島での原発事故も。そして、ソ連のチェルノブイリ原発事故、東海村のJOCの臨界事故…と。「ヒバク」のニュースはその度に、見・聞き、して来ていたのです。しかし、原発の安全神話の流される中、ヒバクは他人事としてしかなく原発労働者の被曝の実態も知らされませんでした。奇しくも、今回福島原発の重大事故が起こってしまった、この事故の処理・収束は、この人たちの命がけの作業によってしか成り立たないという事実によって、ようやく世間に知れ渡ることになったのです。四十万人以上の被曝労働者の存在が。今、福島原発で作業にあたる人は、地元の関連会社に加えて全国から集められています。そこでは専門職の人も要るのですが、使い捨てのように、高線量のヒバクを受ける場所での、誰でもが出来る「がれきの撤去」「配線・配管・資材の運搬」…と、そんな作業を強いられる原発作業員の人によって「収束」作業が進められています。いのちを削りながらの作業です。で、この人たちに対しておかげさまで。なんて言っているのでしょうか？ そう言っている人たちはの上に成り立っている原発社会をこれからも望んで行くのか？北海道「泊原発」が営業運転に入ってしまった、管首相も辞任が決まり、原発を動かす経済の発展と言っている人たちは、必要神話の巻き返しが始まるのか。原発やむなしという人は被曝労働を自分もする覚悟の表明として、福島原発収束作業に行くべきだと私は思います。しかし決してそういうことはなく、あの戦争と同じように、犠牲には決してならない人が、犠牲にした人をたたえて、「収束」して行くのでしょうか。

私たちは、本当のことを知れば、ほとんどの人がそれはないだろうと思うような、悲惨な事実を伝えられることなく、また伝える小さな声に耳を傾けることなく生きて来ましたが、時代がよかった時には、遊ぶことで忙しく、厳しくなれば日常生活を守ること一杯に。この生き方が、招いてしまったものが今・現在であると思います。本当のこと

南無阿弥陀仏

釈明照

ききようしき

帰敬式（おかみそり）受式者募集！

帰敬式とは、法名をいただくことにより、家の仏教であった浄土真宗に、私自身がつながり、真宗仏教徒として自覚的に教えを聞いていくことを表明する儀式です。光円寺では三年に一度、全門徒さんに募集しています。受式の前には「真宗の教え」と「お内仏」の荘厳にお飾りといった基礎・基本を十月・十一月と二回にわたり学び、十二月の報恩講の日に式を執行します。

第一回、十月二十三日（日） 午後七時～九時

第二回、十一月二十六日（土） 午後七時～九時

帰敬式、受式日 十二月四日 午前十一時～

申込は、十月二十日までに、お寺か世話人さんにお申し出ください。